

甲状腺外科草子 57 (承前)

飛行機嫌いの名機探訪：愛南町

杉野 圭三

昭和 53 (1978) 年 11 月、愛媛県南宇和郡愛南町久良湾の海底で太平洋戦争中に沈んだ 1 機の戦闘機が発見され、翌年 7 月 14 日に引き揚げられた。

紫電改である。機体の原型は留めていたが、海底に 34 年間沈んだ状態のため損傷も激しく、阿波機械工業、新明和甲南工場（旧川西飛行機）が復元作業を行った。現在、復元された機体は愛南町の展示館で保存されている。



「帰ってきた紫電改」 「紫電改の六機」 紫電改保存会

現存する紫電改が見られるのは日本では愛南町のみ。愛媛と高知の県境で交通不便な地である。某日、高知へ行った帰途に愛南町へと向かった。



高知から愛南町へかけての海岸の絶景

途中、四万十川に立ち寄りながらのドライブは太平洋を望む風景が素晴らしく、時間があれば優雅な旅行となること間違いなし！



愛南町の紫電改展示館

愛南町の山上の公園に展示された機体は、プロペラが曲がったままだが、きれいな復元がされていた。同僚の K 女史（愛南町出身）は引き揚げ当時のボロボロの状態を覚えており、綺麗に復元しすぎたのではないかとの感想を述べている。

この機体は昭和 20 年 7 月 24 日の戦闘で失われたものと考えられている。複数の目撃者は、「低空

で日土湾に入り右旋回し、尾翼から着水、100メートル海面を滑り、やがて機首から逆立ちするように沈んだ」と証言している。技能上級者による、海面への模範的着水と判断される。操縦者の手がかかり不明だが、以下の 6 名の可能性が考えられた。



鴛淵孝大尉 武藤金義少尉 米田上飛曹



初島上飛曹 溝口一飛曹 今井一飛曹

鴛淵孝大尉（最終階級少佐）は長崎市出身、父は医者、海兵 68 期、七〇一飛行隊長。学業・技量・人格に優れ穏やかで懐深く、いつも笑顔で人をやわらげる雰囲気を持ち、青年士官の鑑と評された。

武藤金義少尉（最終階級中尉）は「空の武蔵」と呼ばれる空戦の達人。6 人の中で唯一の妻帯者で妻に宛てた多くの手紙が残る。日中戦争以来の撃墜数は 30 機前後とされる。他の 4 名も歴戦の優秀な熟練パイロット達である。

元川西航空機の武内正氏は引き揚げられたこの機体と対面し、後に私信で次のように記している。

「あの暑かった夏の日、あなたたちの魂はキラリとつばさの輝きを残して、蒼い蒼い限りない天空へ昇って行ってしまった。

あとに残る同胞のしあわせを念じつつ、敵機の大群を撃つべく機上の人となったあなたたちの激しくも悲しい心情を思うとき、その天駆ける棺となった「紫電改」をつくった私たち川西航空機の元社員として涙なきを禁じ得ない。以下略」

参考資料：宮崎勇、帰ってきた紫電改、光人社 NF 文庫
碓義朗、紫電改、紫電改の六機、光人社 NF 文庫
愛南町紫電改展示館

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2022 年 2 月 22 日